

A T A C 活動の紹介 2 三重地方の元気な企業見学記

一 万協製薬、大興、伊勢市産業支援センター

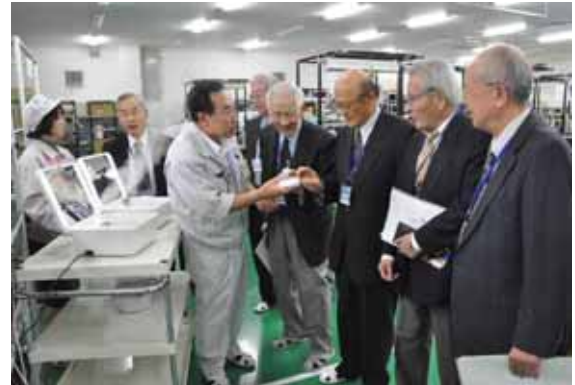
ATACでは毎年優れた技術や製品を有する企業を訪問する一泊研修旅行を実施して、メンバーの見聞を広めて日常のコンサルティングに役立てています。昨年(2011年)は12月7~8日に三重地方の2つの元気な企業と伊勢市産業支援センターを訪問しました。

◆万協製薬株式会社



万協製薬はNHK番組「ルソンの壺」でも紹介されたことがあり、先般のATAC20周年記念講演会で松浦社長様に講演して頂いたことがある創業50余年の「外用剤専用メーカー」です。本社工場は三重県多気郡多気町の周囲を山林に囲まれた自然環境に恵まれた場所にあります。この工場は阪神淡路大震災で神戸にあった工場が壊滅的に破壊されたため、新たにこの地に建設されました。以来僅か14年の間に国内向け外用薬の受託生産に特化し、原材料は海外からの輸入品を使用するなどのコスト低減、そして市場へのスピーディな対応と提案などにより、売上は50倍、従業員も4人から現100人にと目覚ましい発展をとげました。また神戸での震災の教訓を生かして従業員の安全確保のために工場の電気は天井から配線、各間仕切りシャッターは緊急時に容易に破ることが出来るシートにするなど数々の対策が採られています。作業現場までの通路の両側の壁には社長のコメントが一枚一枚に記された改善提案書、費用は会社負担の従業員小グループの食事会や国内外の旅行などの写真がぎっしりと貼られていました。会社全体が家族のような強い信頼関係と絆を築くことへの社長の熱い思い、神戸震災での貴重なご経験からくる強い意気込みが感じ取られました。今回は包装ラインから出荷倉庫までを見させて頂きましたが、2009年に日本経営品質賞を受賞されただけあって、高品質の製品を作り込むために、5S遂行ラインマスターの写真入り表示をはじめ、写真入り作業標準書などの「見える化」と整理整頓が行き届いた清潔な状態が非常に印象的でした。

◆株式会社 大興



株式会社大興は平成元年に創業された年商70億円のまだ新しい優良会社です。訪れた久居工場は伊勢自動車道の近くにあつて緑に囲まれた空気の良い場所にありました。工場の中は若い女性の姿が目立ち、設備間のスペースが広いにも拘わらず整理・整頓・清掃が行き届いているのには感心しました。本来液晶テレビのモジュール生産を主力としていましたが、そこで培った自社技術を生かして浴室用テレビ、美顔器、各種検査装置などの自社製品の開発にも力を注いでいます。‘一人一人の思いをカタチに、夢を実現するカンパニー’と云うスローガンを掲げて、自社開発の製品が、新興国の追い上げや円高などで伸び悩む国内の液晶テレビの部品生産の穴埋めに役立つことを目指しています。真新しい設備が並ぶなかで「必要に迫られて設備を購入するのではなく、まず最新設備を購入して、それを使いこなす中で新しい自社技術・自社製品を生み出して行くのです」と、太田社長は自信をみなぎらせながら熱っぽく語って頂きました。

◆伊勢市産業支援センター

伊勢市産業支援センターは伊勢自動車道につながる伊勢二見鳥羽ラインの朝熊ICから約3kmの高台にあり、伊勢市の産業振興を図るため、主として製造業に対して各種支援を実施しています。企業が新たな外注・発注先や協力工場を探すための「伊勢市ものづくり企業データベース」を作り、創業・起業の支援や伝統工芸の育成を図るために経験豊富な企業支援員3名が常駐しています。研修室の提供、木工機械・木工試験機器、簡易測定器、材料試験機などの利用が可能で、それぞれの内容を見学しました。

企業訪問の合間にATACメンバー一同は伊勢神宮に参拝し、地震と津波で甚大な被害を受けた東北地方の1日も早い復興と数々の難問題を抱える日本の前途が明るいものであるようお祈りしました。紅葉に映える自然と三重地方の歴史の一端にも触れることの出来る2日間でした。(小山、吉田、池田雅 記)